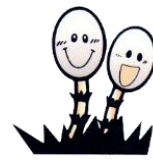


NEWS LETTER

上越つくしの里



vol. 38

発行 (福)上越つくしの里医療福祉協会

〒943-0109 上越市北新保 55-1

TEL 025-520-3294 FAX 025-520-2582

URL <https://tsukushinosato.com>

MAIL tsukushi@tsukushinosato.com

発行人：川室 優 令和3年3月31日発行

活動を振り返る機会をくれた令和2年度

令和2年度は、皆様もたいへんご苦労されていると思いますが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、私たち障害福祉サービス事業所も様々な場面で影響を受けました。農山漁村振興交付金により設置させていただいた「つくしひまわりステーション」のお披露目会が中止になったのを始め、法人が主催するイベント（ひまわり植栽イベント、つくしんぼ音楽会、バタバタまつり）、関連グループ「和・道」医療福祉グループのイベント（健康福祉花見会、ひまわり祭、はさ木マラソン、はさ木フェスタ）、他団体共催のイベント（ふくしのひろば、ふれあいフェスタ）などがすべて中止、秋口に毎週のように参加している地域のイベントも皆無と、週末に販売のない異例のシーズンとなりました。施設の活動においても、旅行などのレクリエーションが開催できないなど、利用者の皆さんにもさみしい思いをさせていただきました。

夏の長雨による障害。つくし工房を中心に地域貢献活動の一環で実施しているひまわりの活動で、主役であるひまわりがうまく育たず、地域を明るく照らすことが十分できませんでした。ひまわりの種から搾油する活動でも、種の収穫量が少なく、種自体も実が育っていないために搾油量が大幅に少なくなりました。そして冬の大雪。35年ぶりともいわれた豪雪は上越地域に大きな影響を及ぼし、ここ数年見たことが無いほど雪に覆われました。道路の除雪が追いつかないなか、送迎はもとより職員が家から出られなくなるなどで休館を余儀なくされ、また車や看板の破損、ひまわりの拠点となるビニールハウスの倒壊もありました。

(写真：マイクロバスに積もる雪)



そのような状況は、これまでの活動を振り返る機会を私たちにくれました。利用者の皆さんへの支援内容は？ 運営状況はどうなの？ 緊急時の対応は？ ひまわりの活動は？ こうするともっと良くなるよねということがたくさんありそうです。今後の法人、事業所運営をどうしていくのか、未来へのビジョンを持ち実効性のある計画を立て、一人一人が前向きに取り組んでいくことの重要性を再確認させていただきました。令和3年度は、ピンチをチャンスに変える年という意気込みで臨みます。

つくしの里では、自分たちの活動の整理と合わせて、活動を広く知っていただくため、ホームページをリニューアルしました。同時に、Facebook、Instagramも開設し、日々の活動を新鮮な状態でお伝えできるよう進めています。是非ご覧になっていただき、記事がいいなと思われたら拡散をお願いいたします。

(写真：ホームページのトップページ)

最後に、このような状況の中ではありますが、利用者の皆さんや地域のための社会福祉法人として、様々な方との協働で新しいことにもチャレンジしながら活動してまいります。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。(文責 統括施設長 田邊)

社会福祉法人
上越つくしの里医療福祉協会

お問い合わせ

ホーム

法人について

事業内容

活動内容

利用希望の皆様へ

お知らせ

採用情報



誰もが暮らしやすい地域づくりを共に



(QRコード：つくしのホームページへ)

令和2年度活動紹介

つくし工房・つくしワークトレーニングルーム(分場)

本年度、つくし工房ではひまわりオイルのデザインをリニューアルしました。透き通った黄色のオイルが映えるようなデザインになっております。つくし工房はもちろん、あるるん畑などの産直所で販売しております。

更に上越市三和区にある、あおき味噌様とひまわり日和とのコラボレーション商品の、みそだまり+甘麹蜜とひまわりオイルを合わせた味噌調味料「ひまわり畑のたまりソース」が完成しました。ぜひご賞味下さい。

自分のため、皆のため、大切な人のためにも新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を徹底しながら、より一層、地域の皆様、消費者の皆様に喜ばれるようなより良い製品や作業を行い、つくし工房利用者、スタッフ力を合わせ頑張っていきます。(原田)



好望こまくさ・ひまわり作業所(分場)

今年度は新型コロナウイルスの影響で、糸魚川地域の交流イベントであるバタバタまつりが中止、日帰り旅行などの余暇活動も自粛と、色々な活動に大きく制限を受けた一年でした。

ただ、そんな中でも軽作業は新たにマスクの製作に取り組み、お弁当部では衛生管理を徹底しながらお弁当の製造、宅配を続けました。

また、お菓子の納品や販売も地域の中で継続させて頂くことができたということ、そのことが何よりもありがたいことだと感じました。私達に今できる活動を利用者の方々と一緒に精一杯続けながら、今後も地域の皆様とのつながりをより一層大切にしていきたいと思っております。(松嶋)



つくしワークショップスペース

就労継続支援A型では、大雪の影響で配達をお断りせざるを得ない状況もありご迷惑をおかけしましたが、こんな時期だからこそ宅配弁当を必要として下さる方々がたくさんいることを肌で感じる事ができた一年でした。

就労継続支援B型では、コロナ禍により少なくなった作業を補い、当事業所で行えることの可能性を広げるべく、新しい作業を積極的に増やしていきました。そのため大幅な工賃減にならず、色々な作業を行えることで新たな一面を発見できる機会になりました。

自立訓練(生活訓練)では、社会資源を回るような活動が行えず、事業所内での活動がメインになりました。そのため来年度のプログラムを見直し、新しいチャレンジも取り入れていく方向で検討しています。(小林)



地域生活支援センターこまくさ

地域生活支援センターこまくさでは障がいあるなし、老若男女、国籍問わずみんなにとって住みやすく、人に優しい街になるために必要なことについて色々な方をゲストに語り合い共有するココロのバリアフリートークを開催しました。

第1回は駅北広場キターレ様にて視覚障がいのある方をゲストに「今の暮らし、これからの暮らし。」について語り合いました。視覚に障害があることで生活上の困り感等について話を聞かせていただく中で様々な気づきがありました。生活上、活用しているユニバーサルデザインのパッケージや支援者との手引き歩行なども実際に披露いただき貴重な機会となりました。

これからも地域の方々が気軽に参加でき、分かりやすい啓発活動や交流イベントを企画していきたいと思っております。(藤田)



グループホームつくしの里

自主防災訓練の一環として、火災時の避難訓練の他に地震時の防災対策について取り組みました。

上越南消防署の方を講師にお招きし、地震発生時の身の守り方や避難の仕方について講話をしていただきました。災害時は自分の命を守ることを一番に考え落ち着いて行動すること、火災時は世話人が不在の場合でも入居者の方が積極的に消火器を使うことなど指導を受けました。入居者のみなさんも真剣に話を聴き積極的に質問をされていました。日ごろから正しい方法で訓練しておくことが災害時に身を守ることになるので、正しい知識を身に付けておくことが重要であることを入居者と職員で共に学ぶ良い機会になりました。(葉吹)



つくしセンター

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためレクなどの活動を自粛していましたが、感染症対策を行いながら活動を徐々に再開しています。

2月には調理実習を行い恵方巻を作りました。恵方巻にちなんだクイズを行い、マグロ、卵焼き、きゅうり、かんぴょう、エビフライなど自分の好きな具材を入れて楽しみながら恵方巻を作りました。久しぶりに仲間と一緒に活動することをみなさん喜んでおられました。

余暇活動はセンターの大きな役割のひとつでありみなさんも楽しみにされているので、今後も感染対策を行いながら楽しめる活動を行っていききたいと思います。(渡辺)



ホームつくし糸魚川

安心、安全な暮らしを送るため、守るためにいろいろと考えさせられた一年でした。感染症から身を守るために、手洗い・消毒の徹底、検温等の健康確認、食堂レイアウトの変更等、3密対策など、思いつく対策を講じてきました。

また冬の大雪では、職員の出勤や業務にも影響が出たり、エアコンの室外機が埋まって、冷風が出たり、その都度、職員や入居されている方々と相談しながら対応してまいりました。

入居されている方々に対しても、ご負担をかけることが多かったと思います。

今年度の経験を振り返り、より良い安心安全な暮らしを目指して、今後とも取り組んでいきたいと思っています。(山口)



職員紹介



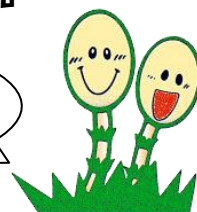
(左から)

センターこまくさ 地活専門職員 石川 由美

ホームつくし糸魚川 世話人 金子 茂

好望こまくさ 生活支援員 大塚 秀和

よろしくお願ひします！！



チャリティつくしツリーへのご協力ありがとうございました

令和2年11月27日～12月24日まで開催しました「2020 第24回チャリティつくしツリー」ですが、12月25日に募金箱オープン式を開催し、無事に幕をおろすことが出来ました。

今年は、56の事業所の皆様にご協力いただき、

募金総額 295,100円

のご寄付をいただきました。

この貴重なご寄付は、以下のとおり使わせていただきます。

- ★「令和2年7月豪雨災害への義援金」 30,000円
- ★「NHK歳末助け合いへの寄付」 10,000円
- ★「障がい者の就労支援のための積立」 255,100円（必要経費を除いたもの）



ご寄付・寄贈品のご報告（令和2年度 ご寄付いただいた順）

ご寄付…蟹江則子様、川室優様、ひまわり植栽実行委員会様
 寄贈品…センターこまくさにカネタ建設様より次亜塩素酸消毒液
 好望こまくさに第一生命様より自転車
 その他、タオル、マスク、英字新聞等の物品を多数頂戴しました。

皆様からのご厚意に、こころより感謝申し上げます。



事業所	分類	苦情内容	対応	
令和2年度苦情受付	つくし工房	送迎について	送迎ルート、降車場が変更になったのに事前の説明がなく体調不良になった。	大雪のため急遽送迎ルートを変更した。送迎者名簿作成時に本人の名前が落ちてしまい、つくしルームへの連絡がいかず、本人へ変更が伝わらなかった。こちらのミスで不安にさせたことを本人、家族へ謝罪し、今後は変更時の連絡徹底することを説明する。
	つくしワークショップスペース	送迎について	待ち合わせの時間になっても迎えが来ない。すごく不安になった。	送迎時間の変更を職員が失念したことが原因。事務室内のホワイトボードにその日の送迎予定者の名前を張り出し朝礼時に職員全員で確認を行う。今後そのようなことがないように本人へ謝罪した。
	センターこまくさ	施設管理	こころの総合ケアセンターの身障者用駐車場が除雪された雪で埋もれている。必要としている人がいるのではないかと。	運営主体である市・健康増進課へ連絡し、身障者用の駐車場を除雪した。積雪の状況次第で臨時駐車場の設置と案内をした。

— 編集後記 —

つくしの里では令和2年に搾油施設「つくしひまわりステーション」を新設いたしました。就労支援やひまわりの活動とおし、持続し多様な地域の暮らしを障がい者の皆様と共に考えてまいります。

(福)上越つくしの里医療福祉協会 理事長 川室 優

今年度上越つくしの里医療福祉協会のホームページをリニューアルし、それにあわせてSNSによる活動の発信も積極的に行っています。当法人の活動をたくさんの方々にも知ってもらえる取り組みを今後も続けていきたいと思っております。

(法人広報開拓部会 原田、渡辺、藤井、松嶋、小林)